

社債発行、最高の4.5兆円

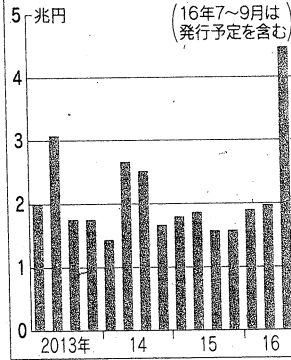
ソフトバンクなど 成長資金に

7~9月

日本企業による社債発行額が7~9月に約4兆5000億円まで増え、日銀のマイナス金利政策四半期ベースとしては約

18年ぶりに過去最高を更新する見通しとなった。発行額が急拡大した。調達した資金をM&A（合併・買収）など前向きな投資に振り向ける動きがある。9日はソフトバンク

歴史的な低金利が社債発行を押し上げている



ループなど8社が円建て社債（劣後債を含む）の発行を決め、調達額は合計7410億円にのぼった。この結果、7~9月の発行額は4兆1960億円と前年同期の2.7

定を加味すると発行額は4兆4660億円程度まで膨らみ、データがとれる1978年以降で最高となる見通しだ。これまでの最高記録は1998年1~3月期の4兆4270億円。前年の山一証券の経営破綻などが響いて金融不安から「貸し渋り」が強まり、資金調達が苦慮した多くの企業が社債市場に駆け込むという特殊な状況だ

目立つのは成長資金の調達だ。ソフトバンクは個人と機関投資家向けに合計4710億円の劣後債の発行を決めた。英半導体設計大手アーム・ホールディングスが買収後の

資金を手当てする。財務改善を狙う企業も多い。ソニーは9日、2013年6月以降の起債を決めた。2000億円を低利で調達し、「支払利息の軽減につながる」という。

来週以降も社債発行は続きそうだ。新日鉄住金は合計200億円を調達する。調達資金は日新製の鋼を子会社化するための株式買い付け資金の一部が浮上している。

に充てる。セイコーエプソンやアイシン精機なども起債を予定しているとみられる。社債発行は7~9月が歴史的なピークとなる可能性もある。市場には「日銀の20~21日の会合での『総括的な検証』を受けて金利が上昇すれば、社債発行ペースは鈍りかねない」とみずほ信託銀行の加藤晴康氏との見方が浮上している。